

連光寺・若葉台里山保全地域農的活用検討会（第3回）

日 時 : 令和4年1月31日（月）10:00～12:00
会 場 : 多摩市役所本庁舎第一委員会室
出席者 : 八木会長、山田副会長、萩原委員
鈴木市民経済部長、渡邊経済観光課長、沖迫農政担当主査、長谷川公園緑地
課長、芦澤みどり担当主査、米山主任
オブザーバー 都環境局平野課長代理、一般社団法人畑会フナキ氏

※ 小形委員は欠席

【配布資料】

資料1 第2回検討会要点録（案）
資料2 検討会検討報告書 骨子（案）
資料3 連光寺・若葉台里山保全地域農的活用事業 スケジュール 案
資料4 連光寺・若葉台里山保全地域 農的活用の試験事業 案

参考資料1 三島市視察レポート
参考資料2 小形委員から提供いただいた資料

【要点録】

- 1 第3回検討会のふりかえり
事務局から説明
- 2 三島市視察の報告
事務局から説明

委員：三島の事業については、収入は見込めるのか、またそれをどのようにしているのか。

市：佐野については、全区画を貸出しているので、そこで収入を得ている。

山田川については、区画の貸出とイベント時の収入がある。イベントは、農園利用者等による任意団体である「グリーンツーリズム研究会」によって企画されているものである。

委員：協議会のようなものは運営されているのか。

市：山田川についてはないと伺っている。

委員：多摩市での取組みについては、何年か先に向けてどのように取り組んでいく

のかガバナンスの仕組みを考える必要がある。

3 検討会検討報告書の骨子（案）についての検討

事務局から説明

都：里山保全地域で行う農業ということでは生物多様性への配慮の視点を入れていただき感謝する。今後の検討を行うことの一つとして、環境に負荷がかかる部分としては、農薬や肥料の問題があると思う。

どういう手法だったら湿地に生息する動植物に影響がかからないのか、そのあたりの検討をどこかの段階で生物の専門家の方にお聞きするなどのステップが必要なのではないか。

委員：(10) 段階的な整備におけるソフト面として、環境面の評価のような部分がある程度入れていくということによいか。

委員：担い手のところに、環境や教育に関する団体に入ってもらいたいということもあり得るのではないか。環境や教育にかかわる団体は、チェック側ではなく、主体としても入る可能性があるということかどうか。

都：そういった方にも入ってもらいたいと思う。

委員：土地利用の部分では既に考慮されている。担い手のところにも、環境や教育にかかわる団体を入れたほうがよい。それと、ガバナンスの部分で、環境面の評価やモニタリングの視点も必要だろうということによいか。事務局いかがか？

市：東京都の里山保全地域の取組の中で、そういった事例とか有識者はいらっしゃるのか？

都：保全地域の中で農業しているところはあるが、なかなかはっきりルールが決まっているところはなく、今回が初めてのケースという部分があると思う。私どものほうでもはっきりこうすれば大丈夫というものがあるわけではない。手さぐりで一緒に進めていくということになるのかなと思う。生物の専門家にきいてみることに、どなたにきいてみるかについては、色々なところに情報収集し、検討していかなければならないかと思う。

市：生物のすむ環境などへの影響を注視することを手探りでどのように行えるかを検討していくことが第一歩だと事務局としては考えている。

委員：そのあたりも書き込めるとよいと思うので検討をお願いします。

委員：3頁の表はなくてもいいかもしれない。

委員：報告書骨子案に記載されている管理棟の予定の場所は、日当たりもよく農業にも適した場所である。ここを管理棟にするのはもったいないので、下

の部分に管理棟を持ってきてはどうか。

委員：報告書に記載の「担い手」「運営主体」「農業にかかわる主体」の表現をうまく使い分ける必要がある。「農業にかかわる主体」については、サウンディングな手法を通して考えることもできるのではないか。

委員：需要と供給がマッチするということが重要である。そのためのガバナンスの仕組みづくりが大事。ニーズの把握、運営のところの担い手候補の把握は重要だろう。アンケートなども必要かと思われるが、そのあたりを市はどのように考えているか。

市：たま広報や公募など、事業を進めながら需要を把握し、潜在的なニーズを掘り起こしていくという方法もとれるのではないかと思われる。

委員：アンケートなどを取ったわけではなく、具体の数値は持っていないが、近隣の他自治体だとニーズがあるのは子供のいる若い家族、高齢者層とその孫などが多いように感じる。

若い世帯の多いマンションなどが徒歩圏内にあると、事業として成り立つ感覚はある。必ずしもアンケート必須というわけではないと思う。

委員：道路横に駐車場があるが、私道がすでにあるので、そちらを借用した方がよいのではないか。

市：私道については車両のすれ違いができないので、危険である可能性もあるため、難しいと考えている。

委員：堆肥置き場の議論が過去の検討会であった気がするが、どこに設置するとよいだろうか。

委員：堆肥置き場は、区画の中央にあると、どこからでも活用しやすいように思う。

委員：エコプラザにおいて発生材（剪定枝）で土壌改良材やチップなどを作っている。こちらで落ち葉堆肥を作成してはどうか。

4 令和4年度試験事業について

事務局から説明。

委員：ロジックが必要である。誰がいつ何をやるのか、もっと詳細な計画が必要ではないか

市：足りない部分は、市が自ら実施する想定である

委員：ファシリテーターは誰にするのか

市：この事業の趣旨を理解してくださっている方が適任であるので、畑会さん、萩原委員にお願いしたい

委員：ワークショップや機運づくりの部分については、どんなやり方がよいだろう

か

委員：5月の植え付けの日等のイベント実施時に、参加している市民の方々と交流会を行い人材育成の可能性を探るという方法があるのではないかと。

委員：呼びかけるメッセージもとても大事だろう。単に農作業をやりましょうではなく、たとえば、農あるまちをつくりましょうとか呼びかけメッセージは大事。メッセージにより、引っかかる人が変わってくる。

市：試験事業については、公募を予定しているが、別途、市の援農ボランティアに呼びかけをしていきたいと考えているが、よろしいか？

委員：個別の声掛けはあっても良いと思う。

委員：何をどこにどれくらい植え付けるのか、記録を取る必要がある

5 次回の検討事項について

6 その他

市：本日欠席された委員からあらかじめ頂戴した意見をお伝えする。

- 来年度の検討会を実施する場合、検討課題を絞って、検討したり、審議したりする場にするのがとよいと思う。

市：都環境局にお願いしたいことがある。地下水への化学肥料の影響や水質の保全等の問題など、東京都環境科学研究所や東京都農林総合研究センター等に研究実績や知見があるのではないかとと思われる。その部分について、ぜひご教示頂きたい。こういった形の環境保全型農業にするのか、植物性肥料のみに限定すべきかどうかなど検討するための材料を提供いただきたい

都：承知した

閉会